週刊 磐城之實業

毎週日曜日發行

發行兼編輯 印刷人 大和田與平
發行所 磐城之實業社
定價 一部金五錢郵税共 半年分一圓廿錢
廣告料 一行三十錢 價場所指定增十錢
印刷所 大和田印刷所

平役場に大嵐

吹かざるか 吹けよ吹け吹け

退嬰と消極と萎微の發源地の如き老衰の府、平町役場にも年度代りが切迫するに從つてそろ〳〵馘首の噂が傳へられ陶汰の嵐が廳內を吹き捲くらんとしてゐる……但しこれ第三者の噂だけで實際に伏見町長は大なたを振へるや否や？眞に町政刷新の勇氣あつて一名姥捨山の名稱にふさはしく兎角能率上がらざる老朽吏員並に無能吏員を整理して新陳代謝すべきである、けれども情實關係に依つて滅茶苦茶である特に水道部半減論は理の當然であらう、彼等の勤務振りを見よ實に言語に絶するものがある緊縮の今日に冗員の多きと不良の徒の在るに於て斷然たる大鉈を加へざるべけんや。

農村を救へよ救へ（其六）

▲政府と民間と▲ 米の生産費に 此の開きあり

是れ農民の一考察

米穀法改正に基準米價を設定するための米の生産費が問題となつた。そこで農林省は昭和五年度の生産費を平均石二十一圓三十五錢と發表し、帝國農會は二十六圓十錢であると反駁した兩者の調査には明らかに四圓七十五錢の差違がある。何れが是てあるか。それは單に生産者農民にとつて迷惑であるのみならず、國民經濟上の大きな基礎問題だが兩者の調査方針と論爭の中心はかうである。

◇

まづ帝國農會と農林省は調査方法が違ふ、農林省の調査は十五府縣より二戸づゝ卅戸の平均であり帝國農會は全國道府縣より七百七十一戸の調査平均である。

それが地方によりまたは農會個々についてさへ經營形態が隨分複雜なわが國の小農を調査するのだから、調査場所の相違や調査數の多少によつて結果が違つてくるのは當たり前だ。調査數と調査範圍からすれば帝國農會側に多少の正しさも認められるが問題の重心は別に兩者が一般生産經濟理論の扱ひ方に見解の相違があるからである。試みに兩者の生産費細目を比較してみると

	帝國農會	農林省
收量	二石七〇三	二石六九六
種子代	四四	四五
肥料代	三、七九	三、九九
勞賃	二二、八一	二二、九九
畜力量	二、〇〇	二、六六
諸材料費	一、二〇	一、八八
農具費	一、九八	二、四四
建物費	一、五五	—
諸税負擔	八、九九	六、六六
農會費	—	一、一八
土地資本利子	二二、五八	一〇、六二

各項目のうちで大きな違ひは土地資本利子の評價にある。何がゆゑに廿二圓五十八錢と十圓六十二錢の大きな開きが生じたのかこの計算方法について帝國農會は土地の賣買價格に年四分を乘じた利子を用ひたといひ農林省は賃收小作料から租税諸負擔を控除した殘額を出す方式によつたと稱してゐる。だから要點は帝國農會が土地賣買價格を評價して一定額の資本と見、これから一定額の利子を算出して生産原價構成の要素とするに對し農林省は小作料より諸税負擔を控除したものを土地資本利子と見て「小作料主義」による賃貸價格に標準を置いてある。根本的論據は相似たものだが小作料が米納である以上、今年のやうな米價の安い年には大きな差を生じる。何れが合理的であるかは經濟理論の見方で岐れることになる。

◇

農林省側の見方では土地の賣買價格は實際の收益價格より高價であり、それを生産費計算の標準にするのは不合理だ。また利率を四分とか三分とかに決するにいふところがないといふにあるらしい。これに對して帝國農會側は「小作料主義によれば第一土地に投じた資本「賣買價格、開墾干拓費、耕地整理費、その他の土地改良費、小作權買收等」を明確に認めないことになる。第二には生産經濟の理論にもとり、第三には實際取扱ひ上の難問が多いと抗爭聲明してゐる。たとへば現物小作制においては米價によつて自身の生産費が增減し、市價が原價を決する矛盾を生ずる。殊にそれには朝鮮、臺灣米の移入によるが如き不純要素が强く混入することになる。また米價の騰落に比例して生産費である租税諸負擔ならびに土地資本利子が增減することになり、從來の自作農創設策や一般租税理論が根本から覆へる。すなはち一定額の土地資本を認めて購入資金を貸付け、米價の高低に拘らす一定額の租税を徴し、一定額の償還をなさしめて來た制度に對して根本的矛盾だと非難してゐる。更に小作權賣買の事例や土地賣買價格の高いのは國情の然らしめる點で延いて生産費の高くなることは等しく國民の分擔すべきものだと保護政策を高潮してゐる。

◇

今回の生産費調査は一般にはともに粗漏なものだといはれてゐるが、米穀法改正案が議會を通れば基準米價の設定に生産費はつきものである。生産費調査そのものが至難である如く米穀政策の運用は永久に厄介なものであらう。農民諸君は此遂など是非に一考察を要する處であらう。

青眼白眼

平町會に二三のキザな奴が居る彼等はいつもお先棒を振つて馬鹿サ加減を撮映して何によらず賣名的登場をなす又は去就不明の自稱中立でご都合主義の癖に嚴正な態度などゝは人を笑はせるにも程がある自治体に政黨色彩の侵入はなごゝ知つたか振りをして氣取つて居るが、ならば抗爭を緩和しその間圓滑に町政の運行に努むべきではないか曖昧の影辨慶でありながら理想論も聞いて呆れるよくわかつたか。

嗚呼既成宗教家の末期は來れり（五）

臥龍堂白忍

たまたま客あり携ふる一書を示し

客曰 此書を讀みしや

答 未だし先づ廣告文を讀めば

搾取に耽る人々

高津正道著

反宗教運動の尖端を切る教團秘密の徹底的暴露

父祖代々幾世紀に亘つて民衆を搾取し來つた宗教も最後の審判者たる無産階級の登場によつて今やその根幹を震憾され始めて來つた本書は佛教々團殊に東西本願寺、光瑞と光演とを中心に現實宗教々團の好惡なるサク取手段と彼等の暴戻淫蕩を極むる欺瞞生活を具體的事實に據つて暴露す

以上の文字にて其書の內容を大略察知することが出來る恐らくは中らざるべきも遠からざるべし素人の眼より觀れば今更大事件かの如く騷ぐは當然なるべきも玄人の目より見ればめづらしくもなく不思議でもない西本願寺の如きは既に何百年以來のことにて或時は本願寺の坊さんの入浴せし風呂の湯を幾百の信徒が競ふて小瓶に頂戴しお流れと稱し三拜九拜して飮んだのであるそれに比して當今は搾取の方法やゝ拙劣になつたやうに思ふ殊に搾取といふも資本家對勞働者の爭議關係と其趣を異にし搾取される方の側が喜んでうれし淚を流して獻金するのであるそれに無産階級の人が突然登場して最後の審判者などゝは自稱し彼之文句を附することは其赤心は諒とするも其場面は恰も忠臣藏のお芝居の幕に勸進帳の辨慶が出るやうなものであるまいか然らば公平に批判するときは如何といはゞ信仰に基くことは不可能である要するに信徒の自覺に俟つべきである。

客曰 往古釋迦は婆羅門教派の領域に於て新宗教を唱導するに當り殆ど席暖かなるに暇あらず東に行き西に奔り南鈴北錫乞食を行して生活の資糧とし其入滅も疊の上に非ざりしと聽く然るに其流れを汲む現代の佛教指導者は徒らに殿堂に安臥して葬儀法要のことのみを職業と心得教義の擴張に盡力せざる理由は如何。

答 客問の如き現狀に至りし原因は一にして足らずと雖實に亦遠き歷史ありといはざるべからず乞ふ少しく語らしめよ……初め徳川幕府は島原の騷亂に手を燒き日本全國に令し天主教の宣傳を嚴禁し峻烈なる刑律を設けて其教徒の巢滅に力を竭したるも根底深くして容易に絶滅するに至らず明曆、萬治の交に至るも尙一領主の下に六百餘人の教徒の捕へらるゝことありされば幕府の苦心一方ならず遂に寺請證文の制を設け其天主教徒たる嫌疑の有無に拘らす士農工商等の身分名字年齡等を登録し佛教の僧侶に之が公證の權利を附與せりされば是れより所謂宗旨人別改めの權利は專ら僧侶の手に歸し婚姻死生旅行等に至るまで一々所屬の寺院に於て勘校檢察することなりたれば天主教徒の潜住すべき餘地殆んどなくして遂に諸國に其跡を見ざるに至りたり然れども徳川幕府の此の政策は僧侶をして殆んど戸籍役人の權を有せしむるに至り其死亡の檢索の如きは醫師にあらずして僧侶の手に歸し婚姻出生の屆は宗旨を書入るゝことを必要條件とし旅行劵の下附又之を寺院より爲し家は代々何宗であることを眞先に書入する制となり所謂寺檀の關係を成立せしむるに至り其宗旨は家に於て代々世襲し檀家は寺院と離るべからざることゝなりぬ此制度は遂に僧侶をして怠惰安逸に陷らしめ葬儀法要の外は何等の任務を盡くすことなく爲に佛教の根底は枯れ果てゝ哀れ其眞精神は面影をも止めず徒らに形骸のみを守りて日を消しぬ此流弊は昭和の今日に於ても尙消滅せず安然として眠れる木下に露の一聲、宗教は阿片なりの叱咤に驚き目を覺まし見れば既に遲し內憂外患一時に身邊に迫り來り此狀態に鑑みての客の問なるべきも今直ちに善處すべき腹案の持合せが無い。

入山採炭の業績如何

＝無配で忍か其れ共
＝三分内外を配當か

大倉系によつて經營され湯本町を中心に礦區を有し採掘されつゝある當會社は昨年十一月末を以て締切つた後期決算に於て五萬九百余圓の利益を計上したが利益率は漸く二分三厘にしか當らない昨年上期に較べると金額に於て五萬六千餘圓の減少、率では二分五厘の低下で近年珍らしい不成績であつた仍で利益の内五萬圓を固定資産償却に振向け無配に終つたのである石炭聯合會では炭界不況の對策を誤つた爲め昨年上期以來各所の貯炭が増勢の一路を辿つた殊にそれが下期になると一層其勢ひを強め八月末には三百二十三萬噸と云ふ未曾有の貯炭を見るに至つたこうなると需要者に乘せられるのみならず炭礦業者自體が金融關係から安値を忍んでも處分を急がねばならぬやうになる貯炭が増加して常備量を二三割起過しても炭價を低落を免れないのに前期は今述べたやうに貯炭は三百二十萬噸以上を算し常備量を倍額にも上つたのだから炭價の崩落するのは當然の事である又北海道や九州方面で金融難から採算無視の處分ものが出たのも貯炭山積の事實から見て少しも不思議な事ではない常磐方面は九州や北海道のやうな巨額な貯炭があつた譯ではないが何分得意先きでは石炭の先安を見越して注文を手控へるし主要地では採算無視の相場が出るのだから比較的貯炭の尠い常磐炭も勢ひ其影響を受けざる得ない當社はこの事情に鑑み前期は極力採掘費の輕減に努め且つ鐵道省其他に對する有利な既約品もあつたのだが何んにしても時價賣りの分は上期に較べると一噸一圓以上も安いのだから有利な先約品があつても亦採掘費其他の諸費を多少節約した位では追付かない利益が半減して近年珍らしい不成績に終つたのも此際餘儀ない事であらう十二月以後の今期成績はどうかと云ふに漸く三ヶ月餘を經過したに過ぎないから的確な處は判らないが期初以來の推移に徴すると利益は大分増加する見込みである石炭聯合會では時期を逸したとは云へ兎に角前期末から送炭制限率を二割二分高め間接に出炭制限を行ふ事になつた且つ十月以後は石炭の需要期節に入るのだからそれやこれやで貯炭が減勢に轉じ最近では二百五十萬噸位に下つたそれでも常備量に較べると尚ほ百萬噸内外……六割も多いのだが兎に角前期の最高時に對して七十萬噸以上も減つたのであるこれが需要時節と相俟つて今期は期初以來炭況は漸次引締り就中紛炭の如きは品薄關係もあつても賣値は前期より五六十錢安いやうだが且前期繰越炭の大部分は炭價の反騰に乘じて既に賣盡した等期初以來の經過は餘程良いのだが多少懸念されるのは後半に於ける推移である常磐炭にとりては兩毛、甲信等製糸家は輕視する事の出來ない得意先であるが本月は製糸業が操業を全体する事だからそれを動機として常磐炭は再び低落しはしないか又四月一日から鐵道省の純炭契約が更改されるのだが鐵道省は契約更改と共に納炭價格を引下げる意向のやうである炭礦業者の方では昨年度の納炭價格を鐵道省の希望を容れ、可なりの安價を忍んでゐるのだから本年度に最早値下げの餘地なしとして強硬な態度を示してゐる果してどうなるか今の處何れとも速斷出來ないが諸物價の大勢から見て若干の値下げを餘儀なくされるかも知れないそうすると四月からの納炭は前半より不利になるのだ斯樣な次第で後半は大した期待をかけられないが前半は相當良いのだから今期利益は前期以上に上る事だけは間違ひなからう配當をどうするか未だ見當はつかないから此點は後日更めて報道する外ないが假に利益は倍加して昨年上期程度に上つても今期は引續き無配當を忍ぶのが穩當であると思はれる。

今秋の縣議戰

興味ある田子氏公認問題

部會と支部との展望

今秋の縣議戰に石城郡から現福島市會議員にして三坂村出身田子健吉氏が前回の雪辱戰として立候補することは恐らくは事實として現るゝことなるべきも政友派は果して公認するや否やが大なる問題である郡内政友幹部一般は從來地方的に何等の關係薄い同氏を推薦するよりは他に多くの有力の候補者ありと寄々相談する者あり而して縣支部としては前幹事長の佐藤庄太郎氏今回の辭任と新幹事長福島在住今後の活動等に對する懸案内幕等に種々に織り込まれたる情實等もある事ならんと摩擦する者もありて此間の消息に或は公認説の放送さるゝことゝなりしならん果して然りとすれば前論勝つか後説の筋書通りが實現するか今後半歳に渡つての結果は頗る興味を以て話題となり居る事なるべし

平消防に勳

一等關内氏

平町會豫算會で蒸氣喞筒新購入問題は井上氏一派の支持では望み頗る薄弱なるものであつたのが消防小頭で町議潜行的有力者關内正一氏の力説大なる努力の結果遂に凱歌を奏したもので平消防組としての氏は正に勳一等と云ふ偉勳者である。

讀者の皆樣

第一、第三の日日曜たけは動力休みの都合上當分二頁と致しますから右御諒承を願ひ置きます。

磐城之實業社

磐城佑賢學舍生徒募集

一本科　高等卒業程度ノ男女
一普通科　尋常科卒業程度以上ノ男
一新設農蠶科（入學資格）　高等科卒業程度ノ男女

一、右各科共ニ入學試驗ハ行ハズ願書受付順ニ入學ヲ許可ス
一、新學期開始　四月六日
一、詳細ハ規則書請求ノ事

昭和六年三月
平町六間門二十番地
磐城佑賢學舍
電話九三

生徒募集

産婆　看護婦
修業年限　兩科を通し一ヶ年
願書提出　三月卅一日限り
詳細は學校宛申込まれたし

婦人にも職業の必要な時代が參りまたそして婦人にふさわしい職業は産婆看護婦であります

平産婆看護婦學校
校長　清野きよ
平町南町　電話平三〇七番

牛豚肉
卸小賣配達迅速
三二三屋
平田町　電話三二三番

家庭圓滿御健康の秘訣
▲家庭圓滿は御臺所の經濟か
美味で安價で滋養と言へば
何時でも豆で丈夫な
折詰日の出納豆を召せ
東京方面その他の御進物は特に勉強
御電話があれば一個でも配達致します
一個八錢
佐藤善次郎商店
平町古鍛冶町　電話三七四番

内科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾　市原三三男
皮膚病
平町田町本通り
市原醫院
（入院隨時）　電話一一四番

銅鐵和洋金物問屋
久釜屋商店
電話九番　九九番
三井生命保險株式會社平代理店
平五　諸橋久太郎

高久病院
平町田町　電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑師　佐竹菊雄
内科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　レントゲン科